





1992年にはオリンピックが開かれ過去2回の万博も開催され、現在のバルセロナは年間700万人が訪れる観光都市としてますます発展し続けています。街中の建物の窓やバルコニーにはカタルーニャの旧国旗が掲げられており、独立心の強いことが伺われました。

2000年の歴史があるバルセロナは、温暖な気候で最低気温15,16℃で最高気温が24,25℃、乾燥して大変過ごしやすく、ちょうど同時期の札幌の気候と似ておりました。



街中には秀でた歴史的建造物、芸術遺産、近代的建築物、ピカソ、ミロ、ダリの美術館があり、中心部に9カ所もユネスコの世界遺産に登録されております。

まず初日に、バルセロナといえばなんと言っても有名な聖家族教会（サグラダ・ファミリア）へ行ってきました。ガウディが1883年から1926年に交通事故で亡くなるまで40年間生涯をかけた教会です。しかし、この工事はまだ終わっておらず現在もガウディが残した設計図や模型をもとに、ガウディ没後100年に当たる2026年の完成をめざして工事が続けられておりました。工事で使われている様な粗末なエレベーターで教会の最上階まで上って見ました。そこからはバルセロナが一望でき、また、眼下では工事が実際に行われておりました。まさに芸術品でいままで多くの教会を見てきましたが、全く異次元の世界でした。ちなみにガウディのお墓は、このサグラダ・ファミリアの地下に眠っており、一般の観光客が行けないところですが特別に見ることができました。



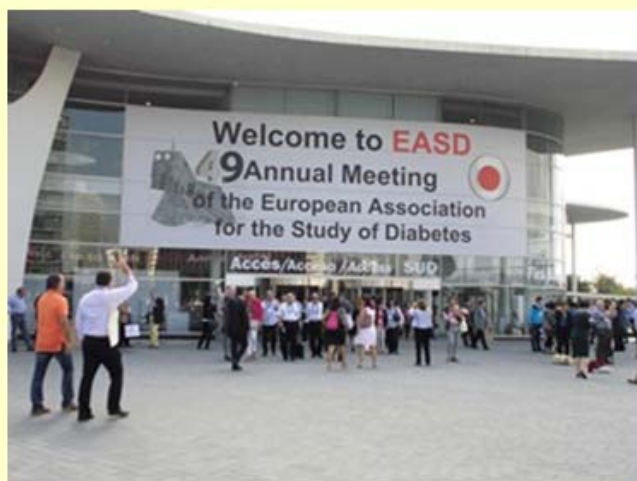
次にグエル公園に行ってきました。これもガウディの作品です。住宅地として設計されましたが、3軒しか売れずプロジェクトは失敗したそうです。しかし、ガウディが自ら買い取り父親と姪とで住んでいたそうです。住み心地の良さそうな家と、座り心地の良いベンチや洞窟のような道路、ギリシャ神殿を思わせる広場が印象的でした。カサ・パトリョやカサ・ミラは、札幌で言えば駅前通りのようなメインストリートにあり奇抜なデザインのアパートでした。



グエル邸も見てきました。全てガウディの作品で世界遺産です。また、同時代にガウディと競っていた芸術家も多くいたようですが、特にドメネクのカタルーニャ音楽堂やサン・パウ病院は、20世紀の初めにこのようなすばらしい芸術品が造られたのには驚きでした。



その他に若き日のピカソやミロ、ダリもこのバルセロナで芸術活動をしていたということです。バルセロナ到着の翌日1日で9ヶ所ある世界遺産のうち7ヶ所を見ました。世界中いろいろなところへ行ってきましたが、今までには感じたことのない感動を覚えました。



翌日より学会会場へ行き口演発表やポスター発表に出席して帰ってきました。口演ではインクレチンのセクションでWhat's new という題名があり聞いてきましたが、いろいろ新しいことが研究されていることが分かりました。今回は一人旅のこともあり、いつもになく短い旅でしたが大変印象に残りました。このような安全で、おいしい料理（パエリアなど）を食べ、スペインワインを飲み、お洒落ですばらしい街を見に行き無事に帰ってこられた事に感謝しております。ありがとうございました。



OP 08 Incretins: what's new?

Chairs: Victor Gault, Thomas Mandrup-Poulsen

» 10.45h » 15.00h » 16.45h

<b>15:00 M. Bugliani</b> GLP-1 and the DPP-IV inhibitor, saxagliptin similarly protect human beta cells from palmitate-induced toxicity: potential role of autophagy
<b>15:15 B. Omar</b> Direct enhancement of insulin secretion by dipeptidyl peptidase 4 inhibitors in pancreatic islets: studies in incretin receptor deficient mice
<b>15:30 K. Nakashima</b> Pulsatile secretion of glucagon-like peptide 1 (GLP-1) from pancreatic alpha cells: evidence for independent mechanism from intestinal GLP-1
<b>15:45 F. O'Harte</b> Novel glucagon receptor antagonist peptides help alleviate streptozotocin-induced diabetes and preserve beta cell function in mice
<b>16:00 F. Andreozzi</b> Ezetimibe, a GLP-1 receptor agonist, activates glucose transport in L6 muscle cell by an AMPK dependent mechanism
<b>16:15 D. Kelley</b> Oxyntomodulin has significant acute glucoregulatory effects comparable to liraglutide in subjects with type 2 diabetes

END